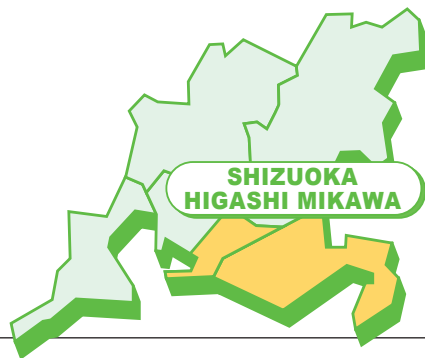


中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

天竜材の利用促進 ～浜松における林業の振興～

わが国の林業は、木材需要の減少や輸入材との競合などにより長らく低調な時期が続いてきた。近年では、戦後大量に植樹された樹木が伐採期を迎えるなど、木材の利用拡大が喫緊の課題となっている。ここでは地域の宝である「天竜材」の利用促進に官民をあげて取り組む浜松市の活動を紹介する。

1. 天竜美林 浜松市は全国第2位の面積を誇る都市であり、市域の約7割にあたる10.3万haを森林が占めている。市北部の天竜区や北区には、「天竜美林」と呼ばれるスギやヒノキを中心とした人工林が広がり、三重県の尾鷲、奈良県の吉野とともに日本三大人工美林と称されている。



2. FSC認証の取得 浜松市は2005年の市町村合併を期に新たに森林・林業ビジョンを策定し、「育てる林業」から「売る林業」への戦略転換を進めてきた。その一環として、天竜材の認知度向上等につながる国際規格認証「FSC認証*1」を2010年3月に取得した。取得から7年が経過し、現在の認証取得面積は約4.4万haと全国第1位(市町村別)を誇る規模にまで拡大している。



*1 FSC (Forest Stewardship Council) 認証:「森林経営の持続性や環境保全への配慮等の基準に適合する森林管理の認証」と「認証を受けた森林で生産された認証材の加工・流通過程の認証」から成る。認証材の利用拡大により森林資源の循環利用の促進が期待される。

3. 天竜材の利活用 浜松市ではFSC認証の取得と並行して、FSC認証材の利活用にも力を入れてきた。

一例を紹介すると、浜松市内で生産・加工された認証材を含む木材を一定量使用した住宅建設に対

する助成制度「天竜材の家 ^{スマイル} 百年住居事業」や、静岡県草薙総合運動場体育館「このはなアリーナ」などの公共施設、金融機関店舗等への認証材の利用拡大が進められている。

また、2016年6月には、天竜材の地産地消による地域産業の活性化や地域創生等に向け、「浜松地域FSC・CLT*2利活用推進協議会」が設立された。協議会では森林組合や建設業、金融機関など木材流通の川上から川下に至る関連業者120社が一体となり、天竜材の利用促進に取り組んでいる。

協議会で連携部会長を務める(株)鈴三材木店社長の鈴木諭さん(39)は利活用の方向性について、「まずは天竜材の認知度を高め、ファンを増やすことが大切。無理な販売をするのではなく、関係者全員がWin-Winの関係になることが重要」と話す。



*2 CLT (Cross Laminated Timber): 欧州で開発された板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル。

4. 今後の展開 「既存の林業のイメージを変えたい。動かなければ何も変わらない」と鈴木さんは意気込む。FSC認証を一つのきっかけに、浜松の林業は着実に変わりつつある。今後、新国立競技場をはじめとした東京五輪施設等への認証材の供給や、海外への販路拡大など天竜材の利活用に向けた様々な事業が計画されており、「攻め」に転じた浜松の林業の飛躍に期待したい。

文:静岡・東三河担当 山崎 豊

取材協力・写真提供:浜松市 産業部 林業振興課、(株)鈴三材木店